

日本・フランス・ドイツ研究交流

## 家族農業経営研究ワークショップ—家族農業の比較分析の枠組み

主催： 京都大学大学院農学研究科・生物資源経済学専攻

JGP (Japan Gateway: Kyoto University Top Global Program)

・人文社会系サブユニット

Agropolis International

共催： 食と農の安全・倫理 寄付講座

「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論 寄附講座

科学研究費補助金基盤 (A)「食品安全のためのリスクコミュニケーション  
モデルの開発とプロフェッションの要件」

### 1. 趣旨

世界レベルでの社会経済変化に対応するため、世界の家族農業経営がいかなる変化を遂げたのか、あるいは変化しつつあるのか。ヨーロッパ (フランス、ドイツ)、日本、中国、西アフリカ、ラテンアメリカの家族農業を事例として、先進国と途上国、そして各国における変化の独自性と共通性を解明するための比較分析の枠組みを提起することが、本ワークショップの基本的課題である。

このような課題を設定するのは、家族農業の姿が大きく多様化しており、家族農業経営の概念の洗い直しが必要となっているからである。

また伝統的な小規模家族農業が立地する地域に限らず、国家や世界のレベルにおいても、家族農業が食料安全保障や土地保全の基盤であるにもかかわらず、世界レベルでの競争にさらされる社会経済変化の下で、大規模な企業経営と比べて効率性の劣る家族農業の存続が厳しくなっているからである。

家族農業の存続が、各国・地域の独自の要因 (独自の政策、経済発展段階、伝統文化など) に依存する場合も、共通の要因 (大規模化、条件不利地域、農業後継者確保の共通の政策など) に依存する場合もあろう。

新たな比較分析の枠組みに基づき、家族農業の変化・多様化の独自性・共通性ととも、存続要因の独自性・共通性についても明示し、グローバル化が進む中での家族農業の役割や、存続のための対策を再検討することにつなげていきたい。

2 回目の開催となるこの「家族農業経営研究ワークショップ」は、京都大学と学术交流協定を結んでいる、フランスの Agropolis International からフランスと西アフリカの家族農業の研究者、そしてドイツの Goettingen University からドイツと中国の家族農業の研究者を招聘して開催される。

翌日は、同じく 3 つの研究機関の大学院生が、家族農業経営とそれに関連する課題について、それぞれの研究内容を披露し合う「農・食・環境経済若手ワークショップ」が開催される。そこでは、上記のワークショップで提起される比較分析の枠組みも参照しながら議論を進める。

これらのワークショップを、今後 3 研究機関が学术交流を深めていくステップとしたい。

## 2.ワークショップ日程

3月17日(木)「家族農業経営研究ワークショップ」

3月18日(金)「第2回農・食・環境経済若手ワークショップ」

## 3.家族農業経営研究ワークショップ—家族農業の比較分析の枠組み

(一般公開・同時通訳付き)

日時：3月17日(木) 13時～17時

場所：京都大学・農学部総合館「大会議室」(C102)

\* 解題 10分 報告 20分 総合討論 90分

解題 家族農業経営の変化をどのようにとらえるか (新山陽子/京都大学)

報告1 日本農業の構造変化とその内実—比較分析に向けて— (伊庭治彦/京都大学)

報告2 フランスの家族農業の変化—比較分析の枠組みより—

(Pierre Gasselin/INRA)

報告3 ドイツの家族農業の変化—比較分析の枠組みより—

(Bernhard Bruemmer/ Goettingen University)

報告4 西アフリカの家族農業の変化—比較分析の枠組みより—

(Jean-Michel Sourisseau & Pierre-Marie Bosc/CIRAD)

報告5 中国の家族農業における規模効果・技術効率・土地貸借

(Xiaohua YU/ Goettingen University)

報告6 ラテンアメリカにおける家族農業の変容—分析視角の提示—

(清水達也/アジア経済研究所地域研究センター)

総合討論

## 4.第2回農・食・環境経済若手ワークショップ：

農業・農村の現代的課題と未来—家族農業経営を中心として

(一般公開：ただし使用言語は英語、通訳なし)

日時：3月18日(金) 10時～16時35分

場所：京都大学・農学部総合館「大会議室」(C102)

\* 報告 20分 質疑応答 10分 全体討議 60分

報告

1. Andrianampiarivo Tsiry (University of Bordeaux), "Rural class structure and transitions in family farming: What do the Moderate Prosperity households in rural Itasy (Madagascar) tell us?"
2. Dieter Koemle (Goettingen University), "The effects of agri-environmental policy on the populations of wild animals in Austria"

3. Yoshihiro Uenishi (Kyoto University), "Diffusion process of particular farming operations: A case of farming method with no fertilizer and pesticide"
4. Kinfe Asayehgn (SupAgro Montpellier), "Innovation and transition in family farming: How dairy farming is emerging in the coffee agroforestry systems of Central Kenya"
5. Henning Schaak (Goettingen University), "Risk attitudes for farm diversification in Germany"
6. Matsubara Takuya et al. (Kyoto University), "Survivability from a Managerial Economic Perspective: Dairy and Rice Farming in Japan"
7. Florjan Bombaj (UMR Innovation, SupAgro Montpellier), "Family farming in the Albanian mountainous areas: Local agro pastoral production systems and market integration perspectives"
8. Tasuku Nagatani (Kyoto University), "Family farm succession to non-family successors by establishing agricultural corporations"

\*助言者 Pierre Gasselin / INRA

Bernhard Bruemmer, Xiaohua YU / Goettingen University

Jean-Michel Sourisseau, Pierre-Marie Bosc / CIRAD